

2024年11月～ 内視鏡センター 開設

消化器疾患に対する診療をさらに充実させるために、このたび内視鏡センターを立ち上げるようになりました。これにより地域の皆様や連携医療機関の先生方により一層信頼していただけるよう、設備・スタッフとも十分な体制を整えて内視鏡検査・治療を行なっていきたいと考えています。

鎮静剤使用胃カメラ 連携検査スタート

お電話からの予約枠

午前 09:00 ～

詳しくはお問い合わせください

カルナコネクトの予約枠

午前 9:30 ～の枠

9:00 ～／ 10:00 ～の枠は鎮静剤を使用しない通常の検査を実施しています。

お気軽にお問い合わせください



052-652-7954 医療連携室

安心して受けていただくために

上部内視鏡検査では苦痛の少ない検査を提供するために経鼻内視鏡の充実をはかりました。また希望される方には鎮静剤を用いて検査を行なうこともできます。また、下部内視鏡検査でも希望される方には鎮痛剤を使用しています。

入院で施行する内視鏡治療で長時間となることが予想される場合などには、全身麻酔で使用されるプロポフォールを使用しています。麻酔が効き過ぎて呼吸状態が悪くならないように呼気の二酸化炭素濃度を測定し、安全に配慮しています。



超音波内視鏡検査・治療

胆道・膵臓の腫瘍性病変や消化管粘膜下腫瘍の診断に超音波内視鏡検査（EUS）を積極的に施行しています。当院には以前から「ラジアル型」と呼ばれる超音波内視鏡がありましたが、穿刺などの処置が可能な「コンベックス型」の超音波内視鏡を導入し、検査・治療の幅が広がりました。EUS 下での穿刺生検では穿刺針を使い分けることでより良好な検体を採取できるようにしており、診断能を高める努力をしています。

EUS 下穿刺を応用した治療として、術後や幽門狭窄などで ERCP による胆道ドレナージが困難な症例に対する EUS 下胆道ドレナージ（EUS 下に胃などから胆管・胆嚢を穿刺しドレナージを行う）を行っています。急性膵炎後の仮性嚢胞の形成とそれに続く嚢胞感染は致命的になることもあり、以前は外科手術が行われていましたが予後は決してよくありませんでした。EUS 下に胃から仮性嚢胞を穿刺しドレナージを行うことで手術と比較し侵襲少なく治療が可能となります。今後は瘻孔部位に特殊なステントを留置し繰り返しドレナージが施行できるようにしたいと考えています。

早期癌に対する内視鏡治療

内視鏡検査の大きなメリットは、内視鏡治療の適応である早期癌の発見が可能であることです。内視鏡画質の向上により、より早期癌を発見しやすくなりました。当院では 20 年ほど前から ESD（内視鏡的粘膜下層剥離法）を施行しており、現在では食道・胃・大腸において年間 40 例あまりの ESD を行なっています。

ESD において最近特筆すべきことは、高周波発生装置の進歩です。胃の ESD では IT ナイフ、食道・大腸 ESD ではフラッシュナイフという内視鏡用の電気メスを使用、高周波発生装置は手術室で使用するものとは異なる内視鏡に特化したものを使用しています。2023 年に導入したエルベ社の高周波装置 VIO 3 は従来のもより切開が容易で出血も少なく、より安定した治療が可能となりました。内視鏡検査から治療まで一貫して施行できることが当院の大きな強みであると思います。内視鏡治療は今後さらに力を入れていく予定です。

内視鏡センター センター長

大橋 暁

日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会指導医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会認定指導医
日本消化器内視鏡学会認定専門医
臨床研修指導医
日本医師会認定産業医



公益社団法人 日本海員救済会
名古屋掖済会病院